

平成29年度

病害虫発生予察情報 第5号

注意報第2号

北海道病害虫防除所 平成 29 年6月 12 日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshoh/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

りんごの黒星病が多発の恐れ！ 重点防除時期以降も追加防除の検討を！

平成 28 年は全道でりんごの黒星病による被害の発生が認められました。そのため、越冬した感染源も多いと推測されます。本年においても既に予察園で平年より早い初発が認められ、一般園においても発生が認められていることから、今後の多発や被害の発生が懸念されます。

本病は葉や果実に病斑を形成して、著しい収量減の要因となることから、開花直前から落花期にかけて重点的に防除が実施されますが、重点防除時期以降の薬剤散布が手薄になることで、後期感染や果実感染による被害が認められる場合があります。そのため、重点防除時期以降についても、園地での発生状況や天候の推移に注意して、追加防除を検討してください。防除の実施にあたっては、薬剤散布の間隔が開きすぎないように注意してください。

1. 発生地域 全道

2. 発生期 早

3. 発生量 多

4. 注意報発令の根拠

- 1) 前年における本病の発生量が多かったため、枝や葉に形成された病斑で越冬した感染源も多いと推測される。
- 2) 長沼町の予察園での初発は6月1日で、平年（6月18日）より早く、6月1半旬時点での病葉率も平年より高い。
- 3) 一般園においても複数地域で既に初発が認められている。

5. 防除対策

- 1) 本病の重点防除時期は、開花始から落花 10～20 日後までの期間であるが、この時期以降も果実感染、後期感染の恐れがあるので、天候の推移や発生状況に注意し、必要に応じて追加防除を実施する。発生園では、防除間隔を 10 日以上あけないよう注意する。
- 2) チオファネートメチル剤に対する耐性菌の発生が全道各地で認められているため、薬剤の選択に注意する。
- 3) 道外では DMI 剤に対する耐性菌の出現が確認されている。道内において DMI 剤の感受性低下事例は確認されていないものの、DMI 剤も含め、同一系統薬剤の連用は避ける。